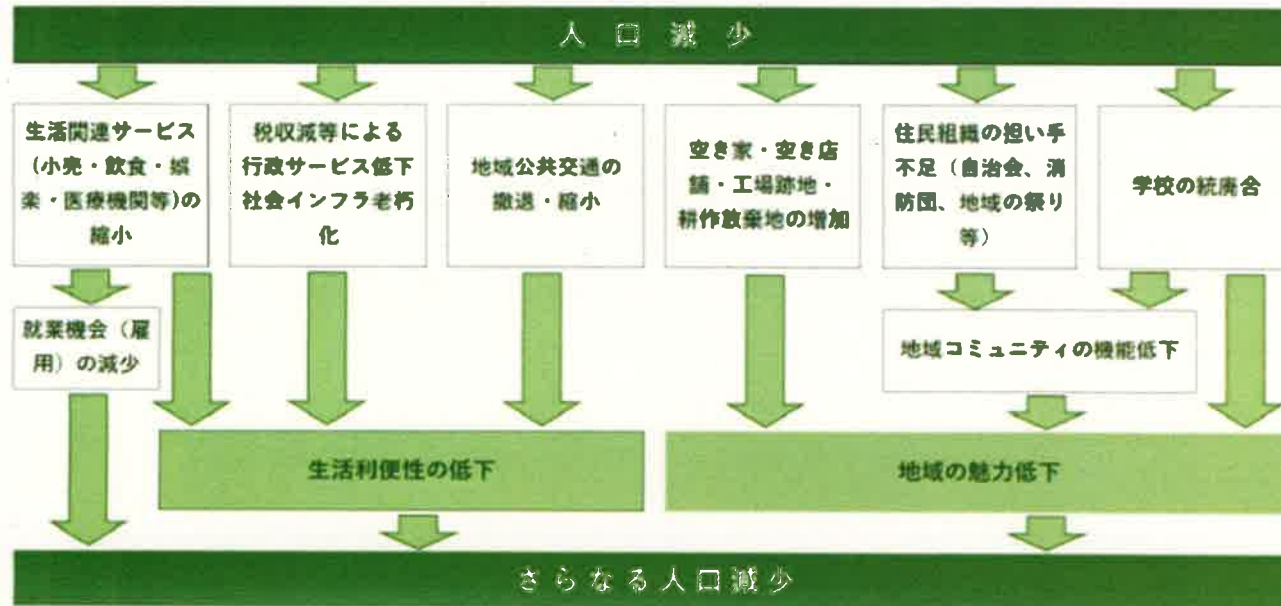


2. 人口減少社会の影響 / “選ばれるまち”

人口減少の悪循環のイメージ図 (国土交通省資料より)



小諸市においても
人口減少による
影響が少なからず
生じてきている

● 一方で人口が増加しているまち = “選ばれるまち”もある

例えば千葉県流山市は・・・

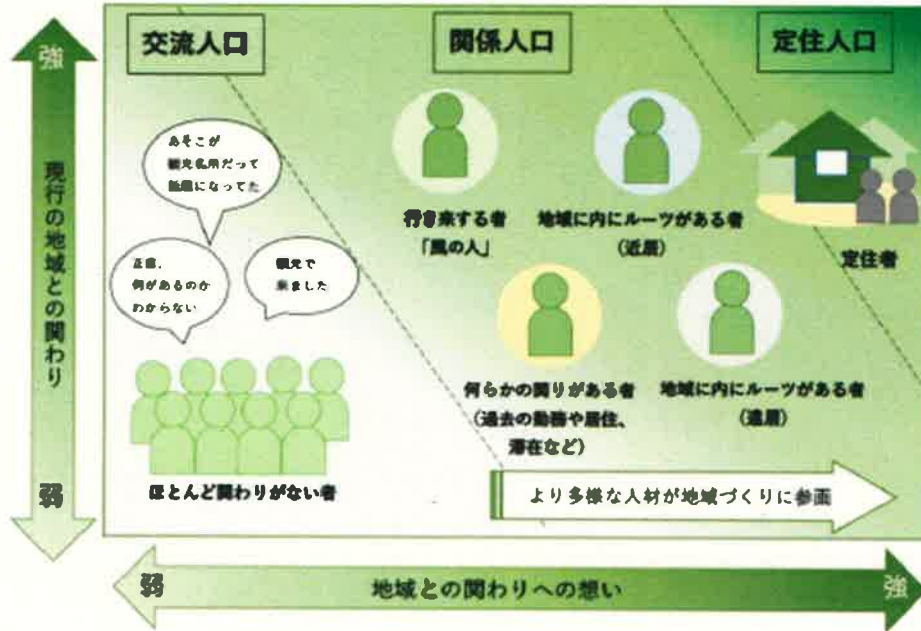
- ・ この10年間で人口約3万人増加 16万5千人→19万7千人
- ・ 特に30～40歳代が多い自治体
- ・ 政令市を除く自治体では全国1位
- ・ 合計特殊出生率は1.62 (全国1.43) 子どもも増加

長野県内では・・・

- ・ 御代田町
- ・ 南箕輪村
- ・ 軽井沢町
- ・ 川上村
- ・ 原村
- ・ 白馬村
- ・ 小布施町
- ・ 野沢温泉村

10. 事例3 関係人口と定住人口の創出①

総務省が示す関係人口の概念図



●交流人口→関係人口→定住人口 (移住) まずは、関係人口の創出から

- ・ 関係人口創出は **“きっかけづくり”** が非常に重要
 「特産品」 愛好家、ファンづくり、ふるさと納税
 「旅行」 観光名所、街並み、人とのふれ合い
 「仕事」 テレワーク、地域貢献型ワーケーション
- ・ **“小諸市の強み”** を活かしての取り組み
 「特産品」 ワイン、ウイスキー、農産物など
 「旅行」 こもろ観光局、体験型、人とのふれ合い
 「仕事」 テレワークの聖地＝軽井沢（日経TRENDY 2021ヒット予測ランキング9位「長野でテレワーク」）、地域課題の解決



魅力ある特産品や話題づくりによる
 「ふるさと納税」の囲い込み
 (合葬墓、移住体験、農産物など)



土壌微生物数によるエビデンスのある
 安心安全の小諸の“農”をブランド化
 ⇒「アグリシフトプロジェクト」

若い世代が出かけなくなる“まちなか”に
 生まれ変わらせるプロジェクト

長野県小諸市は、古くから商賈のまちとして、多くの人が移住の地として移り住んで来ました。しかし近年、人口減少が進み、特に若い世代の移住者減少が顕著です。このままでは、まちの活力が失われ、地域課題の解決が難しくなっていきます。そこで、若い世代が移住し、まちを元気にするプロジェクト「OSHARE INAKA PROJECT」を立ち上げました。このプロジェクトは、移住者や地元住民が協力してまちづくりを進め、地域課題の解決を図ります。移住者には、移住体験やテレワークの機会を提供し、地元住民には、まちの魅力を発信する機会を提供します。このプロジェクトを通じて、まちの魅力を発信し、若い世代の移住を促進し、まちを元気にしてまいります。

商人と行政マンが移住創業支援
 ⇒「おしゃれ田舎プロジェクト」
 職員のまちづくりの自由な発想を応援

【冬期期間中、閉鎖】

2、3cm位の石がゴロゴロ
年間メンテナンスコストは？



小諸市乙女湖公園の土(クレイ)テニスコート 2021.2 撮影



↑ 佐久市流通業務団地内(2面)



← (ガーネット(宝石)敷 4面)
御代田町雪窓公園内



→ 東御市中央公園内
(4面×2段)

【全天候型 通年営業】
平日、氷点下近い気温でも
ご婦人、高齢者仲間で
賑わうコート！

周辺市町の人工芝(オムニ)テニスコート 2021.2 撮影



佐久市駒場公園の人工芝(オムニ)テニスコート 2021.2 撮影